

手足のユビの呼び方を考えてみましょう。指と書くのは手だけで、足のユビは医学の世界では趾と書きます。手は手指、足は足趾です。調べてみると、中国語では足のユビは脚趾と呼ぶそうで、日本語との違いが面白いですね。

手の指は一般用語では親指、人差し指、中指、薬指、小指ですべて訓読みですが、医学用語では拇指、示指、中指、環指、小指ですべて音読みです。人差し指と示指はほとんど同じ意味ですが、親が拇になり薬が環になっているところが違います。拇は単独で親指を意味する漢字ですので、拇指と書くのは当然と納得できます。中国語でも拇指または大拇指でほとんど同じです。環指は英語で ring finger, ドイツ語で Ringfinger, ラテン語で digitus annularis ですの、それに合わせたと思われます。中国語では無名指というそうなので、環指の呼び名の由来は中国ではなく西洋であることがわかります。

学生時代の解剖学の講義では母指球、長母指伸筋など母の字で習いましたので、親指は母指だと思っていましたが、臨床医学に進むと拇指と表記されるのを多く見るようになりました。母指はおそらく戦後の漢字制限に沿った当て字なのでしょう。前述の字義から考えればやはり拇指と書きたいところです。

数字を用いて第1指、第2指などと呼ぶこともあります。機械的で味気ない感じがします。カルテを書くときにはスピード重視で「右2, 3, 4指に」などを書いたりしますが、論文を書くときには、前述の正式名称が望ましいと思います。

足趾の場合は全部に手指のような正式名称がついていないので、第1趾、第2趾と番号で書くのが普通です。例外的に第1趾と第5趾には母趾、小趾と名前がついており、実際に外反母趾、内反小趾、短母趾屈筋などの術語があります。前述のように手の母指は当て字と思われませんが、足の母趾は正式名称です。ときどき拇趾と書く人がいますが、足のユビに手への字を使うのはよくない感じがします。間違いではないのかもしれませんが、避けたほうがよいでしょう。

ユビの間は指間、趾間ですが、特定するときは番号を付けます。拇指と示指の間が第1指間で、順番に4までを振ります。第5指間というのはありません。趾間についても同様です。趾間型足白癬の好発部位は第4趾間であるのに対して、カンジダ性指間びらん症の好発部位は第3指間です。一番長い中指と2番目に長い環指の間で、最も谷が深く乾きにくいことがその理由です。指の長さが疾患の発症と関係しているというのが面白いですね。

ユビの側面を指すとき、足なら内側、外側でよいのですが、手は回旋によって入れ替わるので内外側は使えません。橈側、尺側を使うようにしましょう。

(相馬良直)

— 顧 問 —

大原 國章 大塚 藤男

— 編集委員 —

土田 哲也 五十嵐 敦之 相馬 良直 林 伸和 佐伯 秀久

「皮膚科の臨床」第67巻 第5号 5月号

2025 年 5 月 1 日発行 (毎月 1 回 1 日発行)

定価 3,300 円 (本体 3,000 円 + 税 10%)

年間購読料金

定価 50,160 円 (本体 45,600 円 + 税 10%)

[年間 13 冊 (臨時増刊号、増大号を含む) の誌代]

[年間予約購読者に限り送料無料]

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

TEL 03(3811) 7165 [編集室直通]

TEL 03(3811) 7184 [営業部直通]

FAX 03(3813) 0288

ホームページ www.kanehara-shuppan.co.jp

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 TEL 03(3637)0005

広告申込先 (株)文京メディカル TEL 03(3817)8036

- 本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権 (送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・JCOPY <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構 (TEL: 03-5244-5088, FAX: 03-5244-5089, E-mail: info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。